

よっ葉だより

2023年
8月7日号
No.755

◆新型コロナウイルス感染症対策たすけあい募金◆



栃木県 860
茨城県 862



昭和20年の思い出

赤岩正路

私が小学校に入学したのは、昭和20年の4月のことであった。

桜の巨木が見事に花を咲かせて、私たち新入生を迎えてくれた。私は母に手を引かれて胸をわくわくさせながら校門をくぐった。

入学式は講堂で行われた。講堂には郷土出身の偉人たちの肖像画が金色の額縁に飾られて上から見下ろしており、その偉容に圧倒された。そのほとんどが軍服姿のヒゲのおじさんだった。

校長の式辞は、「新入生の皆さん、入学おめでとう。皆さんが安心して学校に来られるのは戦地で戦っている兵隊さんのお陰です。皆さんは、しっかりと勉強をして、丈夫な体を作り、早くお国のために役に立つ人になれるよう頑張ってください。」と言う紋切り型のものであった。

その後、君が代斉唱と宮城遥拝を行った。

宮城遥拝(きゅうじょうようはい)とは、天皇陛下のご安泰を祈念奉って、1分間頭を垂れて黙祷することである。

その後、担任の先生が紹介され、教室に案内された。私の担任は、野口たきと言う30才ぐらいの女の先生であった。彼女は言った。「先生にもみんなと同じ年の男の子を頭に3人の子供がいます。だからみんなのお母さんのようなものです。そのつもりで先生の言うことをよく聞いてください。先生は自分の子も、言うことを聞かないときは、厳しく叱ります。みんなもそのつもりで下さい。現在お国のために生命がけで戦地で戦っている兵隊さんのことを思えば、小さなわがままは許されません。いいですね。」

後で知ったことであるが、野口先生の旦那は、南方で戦死し、彼女は国防未亡人なのであった。緋の着物を縫い直した筒袖の国防婦人服にモンペをはいた服装で、髪をひつつめて後ろで束ねた格好は三人のやんちゃ坊主を女手一つで育てるお袋そのものであった。緊張しておしっこを漏らした子の世話とかもやって下さる頼り甲斐のある先生だった。

帰りは、校門の所まで見送って下さった。校門には奉安殿なるものがあって、そこに天皇陛下の御真影が安置されているので、校門の出入りの時は、そこに向かって拝礼しなければならないということを教えられた。

それから、地域別の班になって並んで下校するように指導されるが、子供達は三々五々ばらばらになる。当時、国道も時折馬車が通るくらいで全くのどかで、交通事故の心配はなかった。

登校時には、地域毎に少年団というのがあって、六年生から一年生まで団体が整列して登校しなければならなかった。校門には週番の六年生が立哨していて、集団登校でないと直ぐには入れてくれない。遅れて一人で行くと、学年、組、氏名を記入させられた

上はかなりお説教される。それが少年団の評価につながる。だから遅刻は絶対に許されない。これはかなり窮屈なことであった。

また、集団登校の途中で、駅から徒歩で通勤しておられる先生に遭遇することもあるし、指導のため立哨しておられる先生もおられる。そんな時は、10mぐらい前から先頭の団長が「歩調取れ」と号令をかける。一同は一斉に歩調をそろえる。そうして、その先生の前に来ると、「頭右」の号令がかかる。一同は一斉にその方に顔を向ける。そうして、「おはようございます。」と挨拶をする。そこを通り過ぎると、「直れ」となって、やっと並足に戻る。こんなことが毎朝一、二回はある。多い時は四、五回ある。その団の統率振りが、しっかりしていないと、後で団長が叱られる。だから、先生の姿が見えると、団長をはじめ団員のだれもが緊張する。神経をピリピリさせながら手を振り上げ、足の股を高く上げてザックザックと音を立てながら、歩調をそろえて行進しなければならない。

先生方の対応も様々である。若い女の先生は、恥ずかしそうに頬を染めて、丁寧に会釈をしたり「おはよう」と挨拶を返したりする人もいるかと思えば、自分が何様になったかのように漫然とそり返って、歩調がそろっているかとか私語をしている者はいないかなど意地悪くチェックしている人もいる。先生という権威を振りかざそうとする人には、生徒も心得ていて、決して心服はしない。

団登校で学校に遅刻したことがあった。それは出征兵士の見送りの時である。

隣家の長男の一郎に赤紙が来て、陸軍二等兵として出兵することになった。小学生までも動員され、日の丸の旗を持って見送ることになった。駅を10時に出発と言うので、朝から壮行会の酒宴が行われた。

隣家には、農耕馬ではあるが自慢の馬がいた。それに乗って駅まで行くことになっていた。

いよいよ家を出る時になって、一郎はみんなの前で

「この一郎はお国の為に死んで参ります。」と挨拶した。

白い襷を掛け、カーキ色の戦時服を着て革の長靴をはいた一郎は、かなり恰好よかった。しかし、かなり酩酊していて、その呂律は少し怪しかった。

いざ馬に乗る段になると、足元がふらふらして一人で乗ることが出来なかった。二度三度と、一人で馬の鎧に足を掛けようとして、その都度地面にこけた。そこで二、三人の者に抱きかかえられるようにして、やっと馬上の人となった。

「本人があんなに酔ったんじゃ、みっともなくでしょうがねえな」と近所の者が陰口を言うのが聞こえた。

「ああ、大君に召されたる…」

日の丸の旗の波と軍歌の聲に包まれて一郎の行列は、駅に向かったのである。

駅には、他にも何人かの出征兵士がいて、それぞれ見送りの人がいて、混雑していた。あちこちで万歳三唱が沸き起こり、日の丸の旗の波が揺れた。

やがて、定刻に汽車は来て、出征兵士達が乗り込むと、汽車は出発し、小さくなって、見えなくなった。

プラットホームに残された私の脳裏には、酔って赤ら顔の一郎の、それでいて酔いきれない、どこか醒めた、諦めたような淋しい表情が焼き付いて残ったのであった。

そして、さっきの熱狂の渦は嘘のように消えて見送りの人影も居なくなった。

私達は日の丸の旗を丸めてランドセルに差し2時間遅れの登校となった。

教室では三時限目の授業が始まっていたが、私達が教室に入ると、先生は日の丸をひと目見て遅刻の事情を紹介し、「ご苦労様でした。」と言って拍手をした。それにつられて、教室内が一斉に拍手で包まれた。その拍手の中を自分の座席に歩いて行った。何だか自分が出世兵士になったような気持ちで、ずいぶん面映ゆいものがあった。

そして、「ヘイタイサン ススメ ススメ」と言う教科書の文字を読んだり書いたりしたのである。

そうしている間に戦局はどんどん悪化して、本土に米軍の飛行機が空襲するようになった。3月9日、4月13日、5月25日の大空襲で、東京は焦土と化した。東京から50kmも離れた私の家からも、夜空を焦がす焰が真っ赤に広がっている光景を夢でも見るような気持ちで眺めたのであった。その時は焼夷弾の焰の下を逃げ惑う悲惨さにまでは思い及びもしなかったが、やがて着の身着のまま焼け出された被災者が、親戚・縁者を頼って来て語る話に戦災被害は現実のものとなった

学校は急増員となり、年度の途中で一学級増加する処置がとられた。

学校に軍隊が一個小隊分駐することになり、そうでなくても教室が足りないのに、高等科の棟を空け渡した。高等科と五、六年生は、二部授業になった。授業といっても、働き手を兵隊にとられた農家への勤労奉仕がその実態である。低学年の者も、花壇や校庭を畑にして、芋などを栽培する作業に従事した。

7月になると、毎日のように空襲警報が発令され、朝学校へ行って授業が始まるとまもなく帰宅と言うことになる。空襲警報のサイレンが鳴るとハチの巣を突ついたような騒ぎで生徒は荷物をまとめ、集団下校の体制で校庭に集合する。そうして上級生の誘導で集団下校する。そんなふうにもたもたしていると、既に敵機は頭上に姿を見せている。ジュラルミンの機体が太陽にキラキラと光って美しかった百機、二百機と数えきれないくらいの大編隊である。一万米もの上空を悠々と飛んでいく様は堂々としていて敵ながらあっぱれである。行く先は太田の中島飛行場であろうと思われた。時々日本軍の高射砲が攻撃するが、それが花火のように遙か下で炸裂する。何だか見ていて歯がゆいような、滑稽な感じすらする。このB29は途中で爆弾を落とすような事はしないので、

恐くはなかった。恐いのは艦載機の方である。これは、低空飛行して、無差別に機銃掃射してくるので、油断が出来なかった。

ある日、例によって空襲警報が鳴り、集団下校ということになった。エンジンの音で、かなり近くに敵機が迫っていることが分かった。上級生の指示で近くの木立の下に全員身を隠した。誰も逃げ遅れた者もないことを確認してホッとしていると、目の前の田んぼで草取りをしていた農夫が、籠を背負ってひょこひょこと駆けて来る。はらはらしながら見ていると、急降下のエンジンの音がひとときわ激しく聞こえた。「あっ、危ない」と思った瞬間、その農夫は籠を置いて土橋の下に飛び込んだ。その次の瞬間、ダダダダと言う機銃掃射の音がして、数発の銃弾が、矢継ぎ早に打ち込まれ、土煙りが舞い上がった。「あっ やられた！」と、見ていた誰もが思った。が、やがて土けむりが消えると、その中からやおら土橋の下から這い上がって来る農夫の姿が見えた。「ああ、よかった。」見ていた者は一様に安堵の胸を撫で下ろした。そして次の瞬間、誰となく大声で笑ってしまった。それは、喜劇役者のパントマイムの一場面のように思えたからである。生か死かの深刻な場面で、生を得たという厳粛なる事実が、安堵感と共に心の極度の緊張を弛めたからなのであろう。本当に心の底から笑ったように思う。今でもその場面は、スローモーションのビデオの映像のように思い出される。

これも今思えば、一笑に付されるような、片田舎の長閑な場面である。もっと悲惨なことが起きていたのである。

8月6日広島、8月9日長崎に新型爆弾が落とされ、多くの人命が失われた。生き残った人も原爆症で苦悩している。当時は、詳細な報道が無かったが、後日知らされた情報によって、戦争は絶対にやってはいけないと思うようになった。原爆の怖さを知るには広島公園見学は必須である。

やがて8月15日を迎えることとなった。

その日は大事な放送があるからといって、大人達がラジオの前でソワソワしているので、いったい何事だろうと子供心にも遊びに行く気にもなれないで、ラジオの前で待機していた。

玉音放送は正午に始まった。

その日も真夏の太陽がジリジリと照りつける暑い日であった。大人達は、神妙にラジオの前に正座してラジオに耳を傾けていた。雑音がひどく、言葉もむずかしく、何のことか、よくわからなかった。

父は、正座したまま無言であった。まっすぐに伸ばした背中が少し震えているように思えた。母が涙を流しているので、戦争に負けたのだと言う事は想像できた。祖母が、「これからどうなるんかヨ」と、ポツリとつぶやいた。家の中に重苦しい雰囲気漂った。油蟬の声のみがジイジイと暑苦しく聞こえた。勝つといわれた戦争に負けたということが、単純に悔しかった。

やがてマッカーサー元帥が連合軍総司令官として着任し、諸々の改革に着手した。

9月になって、学校に登校すると、多くのことが変化していた。まず第一は軍隊がいなくなったことだ。その跡は、床も天井も

取りはずされてひどく荒廃した有様だった。訳を聞くと、戦火での類焼を防ぐためと言う。実態は冬の暖を取るためなのであった。そこに軍隊の心の荒廃を見る思いであった。

各教室にあった天皇の御真影は撤去され、奉安殿も取り壊された。講堂の将軍達の額も外された。朝鮮・台湾が赤く塗ってある世界地図も外された。授業中に教科書の一部を墨で塗る作業が行われた。戦争賛美の本は、学校に集められ、校庭で焼かれた。

先生たちの態度も変わった。特攻隊の飛行服を得意気に着て何かという鉄拳制裁をしていた男の先生は、急に猫なで声になり、「アメリカさんはこうですからね」とすべてアメリカ流民主主義を真似して「皆さん話し合きましょう」と何でも子供達に決めさせ、自分の意見を言わなくなった。学級のルール作りで延々と討論が交わされた。委員長・副委員長も任命ではなく選挙となった。

それから、5, 6年生になると男女別学級だったのが男女共学になった。机を並べて座らせられたりすると、始めは妙に落ち着かないものであるが、それでも自由に意見を言い合える雰囲気は、それなりに意義のあるものであった。私はアメリカ流の自由主義教育を受けられて良かったと思っている。また、国家的多難の時

期に就学期があったことを不幸とも思っていない。むしろ良かったと思っている。

現在、民主主義と権威主義との対立で、ウクライナとロシアが戦争しているが、プーチンは原爆の投下をほのめかして脅している。これでは、第三次世界大戦になりかねない。バイデンは広島を見た。プーチンも広島を見て頭を冷やして欲しい。

冗漫な記憶の羅列で恐縮であるが、これも戦中・戦後を生き抜いて来た85才の老人の生きた証しとして書きしるしておきたい。
(終わり)

赤岩正路さん

昭和13年生まれ。現在の小山市立間々田小学校入学。
古河市在住。

よつ葉だより企画「身近な人の戦争体験」へ手書き原稿をお寄せ下さいました。

参加してみませんか

よつ葉の広場～話・輪・WA～in小山

よつ葉生協の取り組みのお話のほか、両毛酪農さんにお越しいただき、お話を伺います。「温活レシピ」でお馴染みの青木理事による牛乳レシピの実演も行います♪

日時：9月8日(金) 10:00～11:30 (受付9:45～)

会場：よつ葉生協 本部 調理室 (栃木県小山市栗宮1223)

参加費：無料

定員：15人 託児：なし

締切日：8月25日(金)

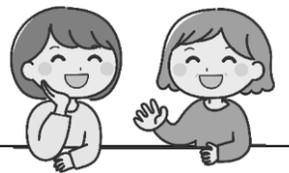
主催：よつ葉生協

問合せ：よつ葉生協 組合員組織部 TEL 0120-07-1613

<持ち物>スリッパ、筆記用具

*子供連れ参加歓迎です。

*8/29以降の案内を発送します。



4年ぶりの
開催です。



よつ葉マルシェ in 宇都宮

8月26日(土) 10:00～15:00

場所：マロニエプラザ大展示場

(宇都宮市元今泉6-1-37)

ハンドメイド、焼き菓子、アクセサリー、コーヒー、植物、占い、新鮮野菜、パン、ワークショップ、お弁当

主催：よつ葉生協 TEL 0120-07-1613

日頃からいろいろな事に取り組んでいるよつ葉生協の組合員さんたちを中心としたこだわりのお店がたくさん出店します！

ハンドメイド作品や食べ物、整体、ワークショップ、普段は宅配でしか買えないよつ葉商品などが勢揃い！ここでしか買えないものを見つけに来てください！各お店でスタンプを集めて、空くじなしの抽選会も実施します。

ご家族、お友達とごいっしょにお気軽にご来場ください。



9月30日(土) 太田マルシェ開催！！

第13回 定例理事会報告 7月12日(水)

《報告・協議事項》

(1) 副理事長の選任について

理事長のサポート体制として横山常任理事の副理事長への選出を提案し、承認されました。

(2) ハンガー・フリー・ワールドへの協力について

ハンガー・フリー・ワールドは、飢餓のない世界を創るために活動する国際協力NGOです。よつ葉生協も取り組みに賛同し、協力していくことを提案、承認されました。回収した書き損じはがきなどが換金され、寄付に充てられます。組合員へは回収用の専用封筒を配布する予定です。

(3) 「高校生1万人署名活動」への協力について

今年も継続して取り組みます。ご協力をお願いします。

配布期間：7月24日(月)～28日(金)

回収期間：7月31日(月)～8月18日(金)

(4) 6月度 組合員活動会議報告

①第41回総代会の振り返り

②各委員会より報告(各企画予定確認)

③よつ葉の広場 話・輪・WA(今後の予定確認)

④11月25日(土)ふれあいまつり(内容提案)

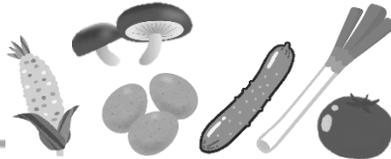
⑤農業体験について(今後の予定確認)

●6月度事業実績

組合員数	27,005名(6月20日現在 前年比101.1%)
	加入219名 脱会114名
供給高	384,387円(前年比106.0%)
	2023年4月～累計1,122,074千円(前年比101.0%)

産直委員会発

生育障害が出ています



今年の夏も梅雨の頃から真夏のような暑さになり、お野菜の生育にも影響が出ています。

【JAやさと】有機栽培きゅうり…7月3週～8月1週まで根こぶ病のため欠品 今季終了

【茨城県八千代産直】トマト…暑さのため9月まで欠品
長ネギ…一時ネオニコ使用

【どんぐりくらぶ】原木しいたけ…暑さのため生育不良で7月3週から欠品
8月1週からミストで工夫している。

【わたなべ養鶏所】たまご…鶏の食欲が落ちて卵が小さくなっています。10個入りは数が減る場合もあります。値引き処理をさせていただいております。

【石塚さん】とうもろこし…雨・雹被害で折れたため一部欠品

過酷な暑さはしばらく続きます。異常気象による生育障害へのご理解をお願いいたします。

欠品は出ていますが代替産地のご協力で、よつ葉生協は代替品を同等以上の商品に限定してお届けしています。この暑さの中でお野菜を育てている生産者さんに感謝し、応援して買い支えていきましょう！

(産直委員会担当理事 針谷光絵)

よつ葉太陽光発電報告

○2023年5月24日から6月23日(31日間)の太陽光発電量は、10,103kWhでした。CO2削減量は3,177kg(18Lの灯油缶を134本燃焼した量)です。

<よつ葉だより休刊のお知らせ>

ゴールデンウィークで印刷会社お休みのため8月21日号のよつ葉だよりは、お休みさせていただきます。ご理解の程よろしくお願い致します。



新型コロナウイルス感染症対策たすけあい募金報告(7月4週分)

ご協力ありがとうございます。

組合員さんの助けあいの気持ちが広がっています (単位:円)

栃木コロナ支えあい基金 (860番)	1,800
茨城誰かのために募金 (862番)	400
合計	2,200

共同購入注文書の該当番号に数量をご記入ください。

WEB注文の場合は、左側【企画商品・募金】内の【募金関連】をクリック。一口100円の募金になります。

東日本大震災・東電原発事故での支援金 募金報告(7月4週分)

ご協力ありがとうございます。

組合員さんの温かいお気持ちが今週も寄せられています (単位:円)

放射能から子どもを守る募金 (900番)	2,800
震災孤児を支援する募金 (910番)	13,500
「有機農業と国産種子」募金 (920番)	5,000
合計	21,300

共同購入注文書裏の「10品以上の記入欄」に該当番号と数量をご記入ください。

WEB注文の場合は、左側【企画商品・募金】内の【募金関連】をクリック。一口100円の募金になります。

共通申込書

希望する行事名に してください

よつ葉の広場～話・輪・WA in小山

組合員番号	氏名
住所	
連絡のつきやすい電話番号☎	
参加人数 (大人) 組合員	人 ※同居の家族は組合員に含みます
(大人) 組合員以外	人
(小・中学生)	人 歳 歳 歳
(未就学児)	人 歳 歳 歳
参加者のアレルギー	無・有 ()

託児: 6カ月以上のお子様から	人 歳 歳 歳 歳
お子さんのアレルギー	無・有 ()

備考欄

●編集・発行よつ葉生活協同組合 小山市栗宮1223

☎0120-07-1613 TEL 0285-45-9100 FAX 0285-45-9101

HP <https://yotsubacoop.jp/>

よつ葉だよりメールアドレス yotsubadayori@yotsuba-coop.jp



ホームページ



Facebook



Instagram